

二〇一九年五月一七日

玻璃皿の透明感や夏料理  
緑陰に集合したるベビーカー  
麦の穂の整列乱し風渡る  
池ほとりの涼し靴づれ休めけり  
長屋門大鉦振るふごと飛燕  
耳鳴りにあらず間遠の蟬の声  
衣更へてお洒落楽しむ米寿翁

宏 虎  
満 天  
明日香  
なつき  
たか子  
素 秀  
宏 虎

二〇一九年五月一六日

田水張り終えて連邦パノラマに  
浜駈けてゆく白帯の裸足かな  
庭いぢりしたる手なれば蚊も打てず

もとこ  
智恵子  
せいじ

二〇一九年五月一五日

川底に銀翻し鮎遡上  
里山に摘みきしといふ蓬餅  
噴水の弧を駈け抜けて児ら遊ぶ

智恵子  
うつき  
ぼんこ

二〇一九年五月一四日

次々に干潟呑み込む五月潮  
高木の森を砦に薔薇の園  
塗香して仏にまみゆ安居寺  
耕運機土くれこぼす青田道  
降り始む雨に田蛙騒がしき  
竹秋の脊山を戸々に棚田村

三 刀  
菜 々  
はく子  
小 袖  
うつき  
うつき

二〇一九年五月一三日

母の日や子の来て弛む夫の顔  
百畳の棚に滝なす藤の花

よし女  
やよい  
うつき  
さつき

二〇一九年五月二日

山藤の彩を失ふ暮色かな  
ハーブティー試飲コーナー園薄暑  
青蔦や象のはな子を偲ぶ檻  
山路いま森林浴となる奈落  
若楓磴はたたみにたたみたる  
えごの花散って星屑撒き散らす  
靴跡のハの字への字や田水張る

さつき  
せいじ  
やよい  
よし女  
よう子

毎日句会みのる選・二〇一九年五月一九日